

天皇陛下御即位三十年記念・明治維新一五〇年記念

愛知県神社関係者大会

11月26日、愛知県下の神職・氏子総代・敬神婦人会役員など約1500名が参加し、愛知県神社関係者大会が江南市民文化会館を会場として開催されました。

本年は天皇陛下御即位三十年、明治維新一五〇年記念の佳節に当ることから、明治天皇の玄孫であり作家の竹田恒泰氏による「これからの日本を語る ―御代替と憲法改正について―」と題する記念講演が行われました。竹田氏は、現在憲法改正の議論がなされている中で、日本国憲法に天皇は日本の「象徴」とされていることは、平安時代も江戸時代も、ずっと昔から象徴であることに変わりはありません。欽定憲法である大日本帝国憲法には象徴と書かれてはいなかったものの、だからといって象徴ではなかったわけではない。象徴とは、国民が天皇の姿を通じて、その先に日本の形を見ていることを表わしている。そして歴代の天皇より今上陛下に至るまで国家・国民を第一とする「祈り」が続けられており、天皇陛下と国民との関係は、深い部分では何も変わっていないと主張されました。講師の熱意が参加者一同に伝わる素晴らしい講演でした。

講演後の関係者大会では、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、白井清夫副庁長の開会の辞に続いて功労者表彰が行われました。神宮大宮司表彰、愛知県神社庁表彰など個人・団体合わせて約90名がその栄に浴されました。続いて牧野武彦庁長の挨拶の後、県神社総代会会長挨拶（代理杉浦澄雄常任理事）、神社本庁統理告辞（代理田中恒清神社本庁総長）、神宮大宮司祝辞（代理渡邊修神宮禰宜）、来賓として澤田和延江南市長、有村治子参議院議員が挨拶に立ちました。その後、来賓紹介、祝電披露がなされました。最後に、大会宣言文を大竹宗愛知県神道青年会会長が朗読し、全会一致で決議されました。服部憲明神道政治連盟幹事長の先導により聖寿の万歳を三唱、千秋季頼副庁長の閉会の辞

をもって大会が終了しました。

